

◆東一坊坊間路西側溝の調査

—第282-14次

はじめに 個人住宅改築にともなう事前調査である。調査地は、平城宮壬生門より南へ約120m、また東一坊坊間路とその東西の両側溝を確認した第269-5次（平成8年度）調査区の北へ約90mの位置にあたり、東隣には第258-8次、西隣には第258-9次（ともに平成7年度）調査区がある。調査区内において東一坊坊間路西側溝の存在が予想されたため、敷地西寄りに東西10m×南北5mのトレーナーを設定した。

検出した主な遺構 奈良時代の遺構として、東一坊坊間路およびその西側溝を検出した。第269-5次調査において

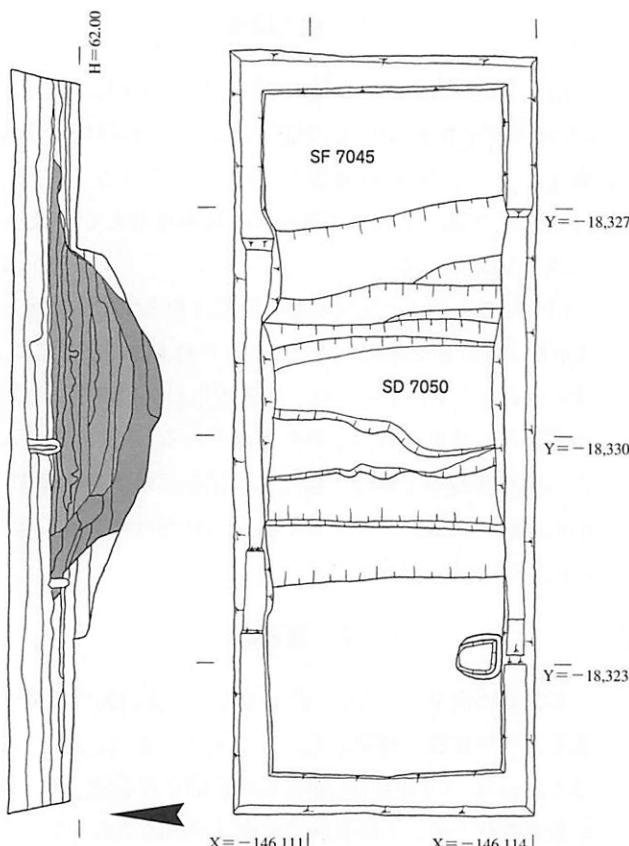


図79 第282-14次調査 遺構平図 1:150

検出した東面築地SA7070および添柱列SS7064は検出しなかった。

東一坊坊間路SF7045を、遺物包含層を除去した黄色粘質土の地山面で検出した。整地土等はとくに確認されなかった。また、東一坊坊間路西側溝SD7050は、幅5.7m、深さ1.5mである。西側溝の堆積は大きく2層に分けることができ、下層が奈良時代前半、上層が奈良時代中～後半以降の堆積である。

出土遺物 SD7050より土器と瓦が出土し、木簡等は出土しなかった。土器は奈良時代中頃のものが西側溝の上層堆積より出土した。

出土した瓦埠類は表17の通りである。西側溝の下層堆積からは藤原宮式の軒丸瓦6273Bが出土した。また、上層堆積からは軒平瓦6681Bが出土している。

まとめ 左京三条一坊の八坪と九坪の間にある東一坊坊間路に関する調査は、過去2回おこなわれているが、後世の削平により坊間路およびその側溝は確認されていない。南の第269-5次調査では、左京三条一坊の七坪と十坪の間にある坊間路とその東西両側溝を検出している。本調査で検出した坊間路西側溝の心は、第269-5次調査で検出した坊間路西側溝の心と一致している。壬生門心と本調査で検出した西側溝心との距離は約30大尺（10.8m）であり、壬生門心で折り返すと、東一坊坊間路の幅は約60大尺となる。

（高妻洋成）

軒丸瓦		軒平瓦		丸瓦	
型式	種	型式	種	重 量	19.4kg
6273	B	6681	B	重 量	19.4kg
6316	Da	1	1	点 数	137
				平 瓦	
				重 量	74.2kg
				点 数	468
				道 具 瓦	
				隅切平瓦	1
				熨斗瓦	1
軒丸瓦計		軒平瓦計		計	
2		1			

表17 第282-14次調査 出土瓦埠類集計表